

手作り楽器資料

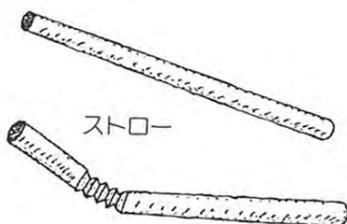
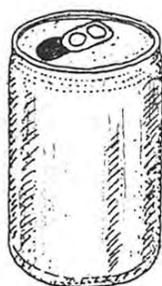
3. 吹き口と歌口が固定されている

～ホイッスル属～

◀空缶の笛▶

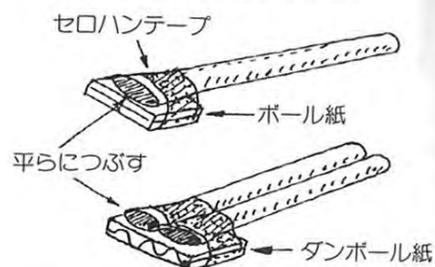
空缶の飲み口にストローをあてて吹くと、缶の大きさによりハトやフクロウの鳴き声聞こえてくる。いろいろな大きさの缶で音を出してみよう。

いろいろな
大きさのア
ルミ・鉄製
の空缶。



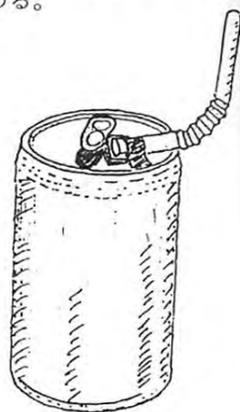
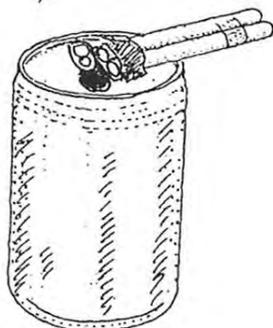
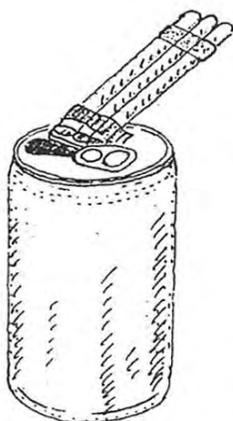
つくり方

1. ストローの先を少しつぶして平らにし、ボール紙・ダンボール紙のような厚目の台紙にセロハンテープで貼り付ける。



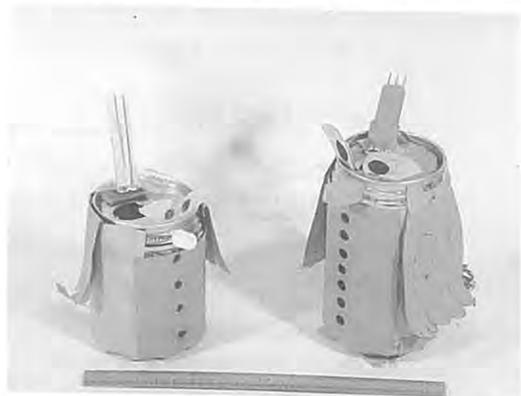
2. 空缶の飲み口にあって吹いてみて、よく鳴るところが見つかったらセロハンテープでとめる。

2～3本のストローでも吹いてみよう。



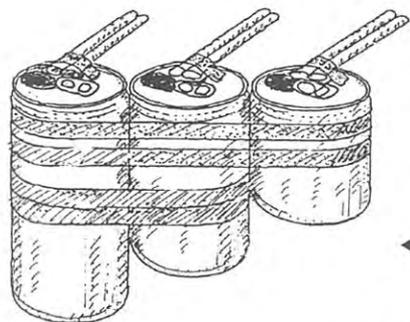
紙粘土でいろいろな形に変身させてみよう。





◀空缶のフルート▶

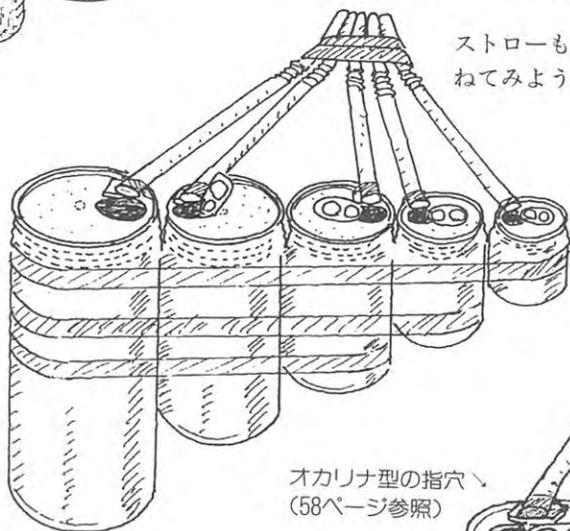
いろいろな大きさの空缶をビニールテープで束ねて音高を出してみよう。



空缶に水を入れて、正確な音高を決めよう。

◀空缶のハーモニカ▶

ストローも束ねてみよう。



オカリナ型の指穴、(58ページ参照)

空缶は350mlまでの大きさの方が音がいいよ。



←フルート型の指穴 (22ページ参照)



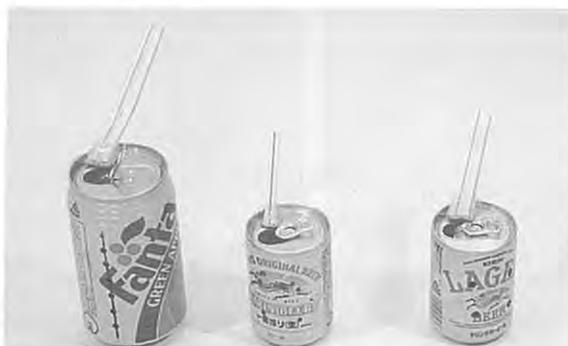
土笛型の指穴 (24ページ参照)



底を切り取り水につけて吹いてみよう。

空缶を上下させる

底を切り取る





↑鳥のくちばしと尾が動く



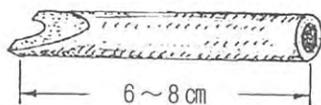
↑(左)風車がついているウグイス笛
(右)鳥が動くウグイス笛

◀ウグイス笛▶

ウグイス笛は、昔、鳥寄せのために使われたもので、親指と中指でいろいろな音色を出すことができる。

つくり方

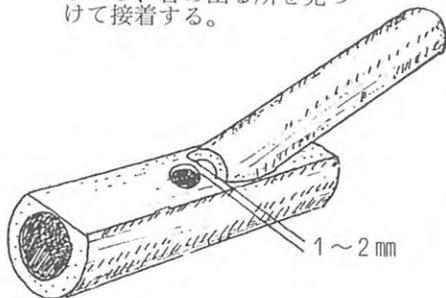
1. 吹き口の細目の竹を図のように小刀で斜めに削り (30~45°) 紙ヤスリで平らにする。



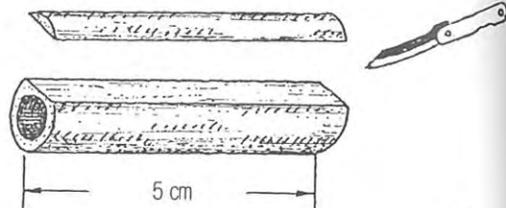
34

中の皮が残っていると音が出ない原因になるよ。

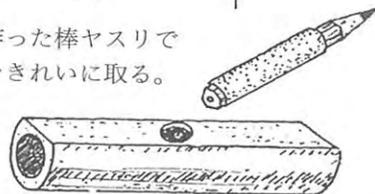
5. 吹き口の竹を前後に動かしながら、音の出る所を見つけながら接着する。



2. 胴の太目の竹を47ページのようにはかり、小刀と紙ヤスリで平らにする。



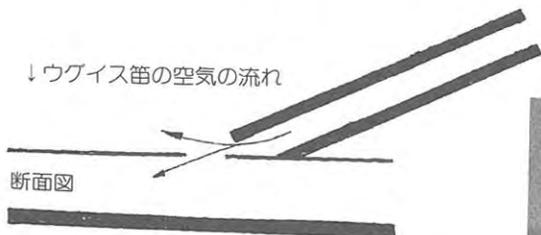
3. 鉛筆で作った棒ヤスリで中の皮をきれいに取る。



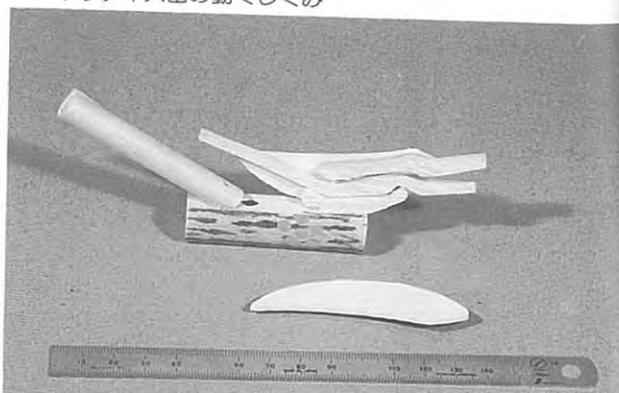
4. 中央に0.8~1 cmぐらいの穴をあける。
(21ページ参照)

接着剤が乾くまでセロテープで留めておくこと。

↓ウグイス笛の空気の流れ



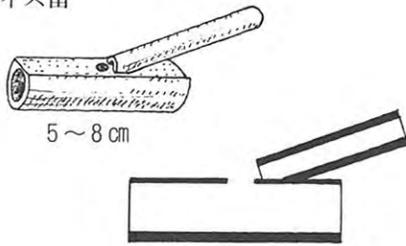
↓ウグイス笛の動くしくみ



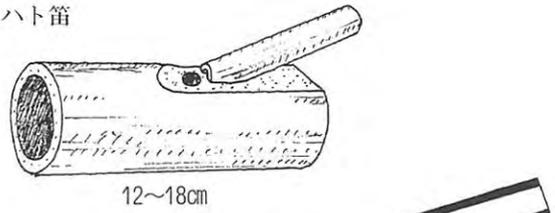
◀いろいろな鳥笛▶

胴の竹の大きさ・太さを少しずつ変えて、いろいろな鳥笛を作ってみよう。

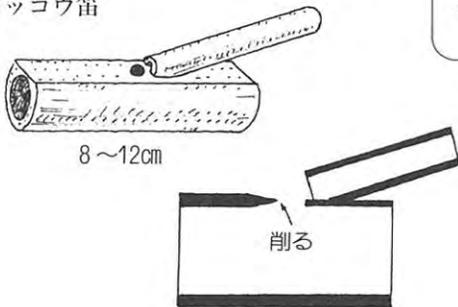
◎ウグイス笛



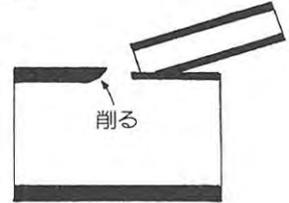
◎ハト笛



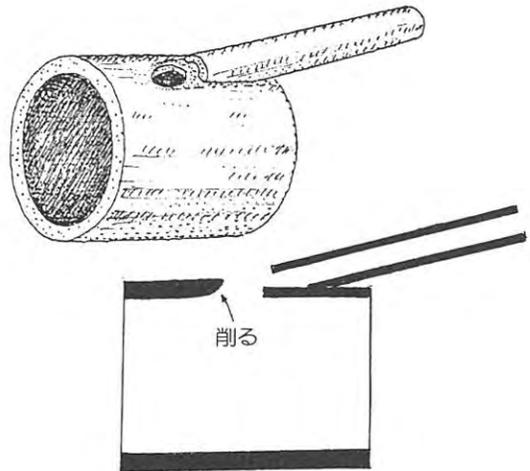
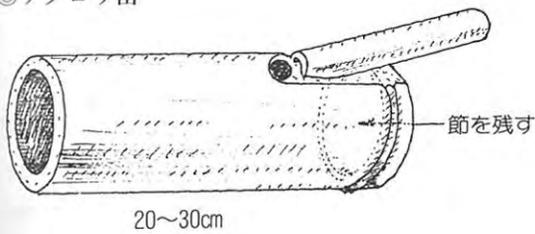
◎カッコウ笛



胴の長さ・太さを大きくすると、低い音が出るよ。



◎フクロウ笛



細い笛の吹き方

片手でふさげる場合は、親指と中指で交互にふさぎ「ホーホケキョ」という気持ちで吹いてみよう。

太い笛の吹き方

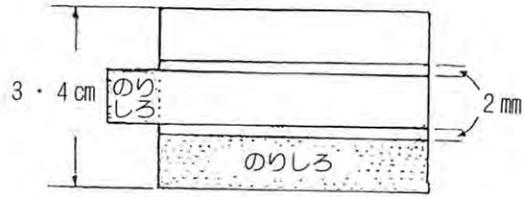
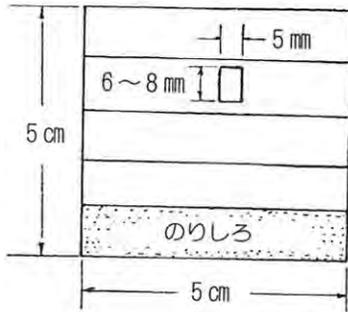
胴の太い笛は、左手で後ろ、右手で前をふさぎ手の開閉・強弱で「ホー」とか「カッコー」と吹いてみよう。



◀厚紙のウグイス笛▶

竹のかわりにボール紙などの厚手の紙で胴・吹き口を作って、竹の笛と同じように吹いてみよう。

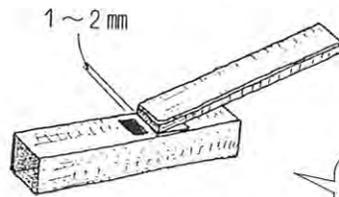
つくり方 1. 胴・吹き口を下图の寸法に作り、折れ線を入れる



2. 吹き口と歌口を1~2mm離して接着する。

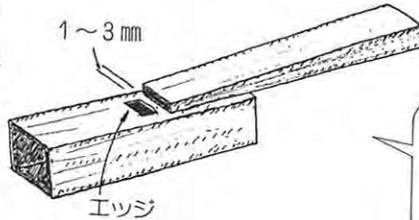
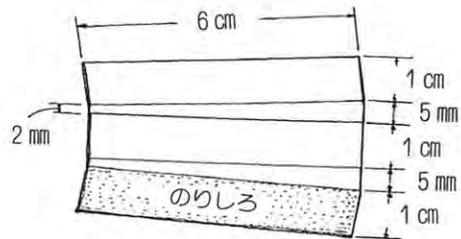
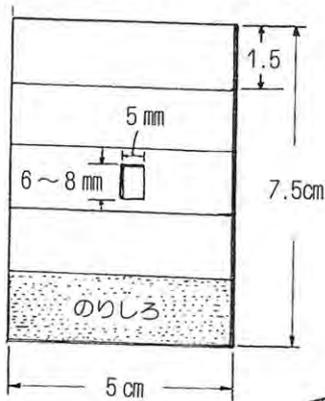
3. 吹き口を矢印のように上下させて、音の出るところを見つける。

歌口の大きさは、本物のリコーダーを参考に決めてもいいよ。



息が平らにあたるリコーダーの吹き口と同じ。

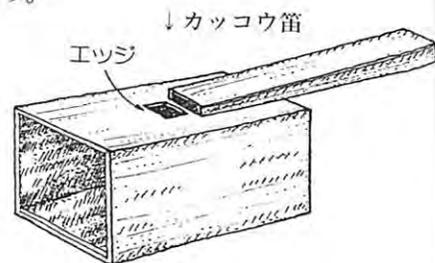
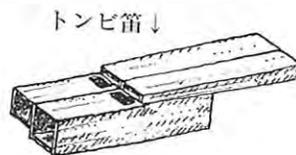
●吹き口が斜めの笛を作ってみよう



音が出ない時は、エッジを上下に動かして、34ページのようにする。

スチロール板やアルミ箔の弁当箱でも同じように作ってみよう。

上図を参考にして、胴の寸法が大きいカッコウ笛・ハト笛・フクロウ笛を作ってみよう。2連・3連にしてトンビ笛も作ってみよう。

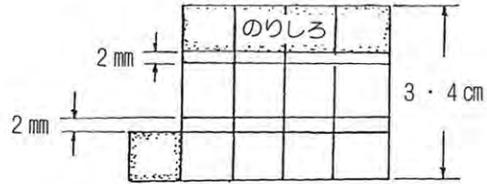
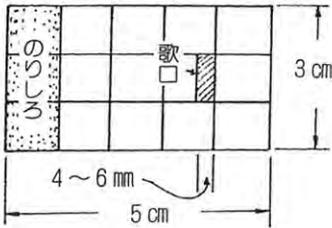


◀厚紙の笛・その1▶

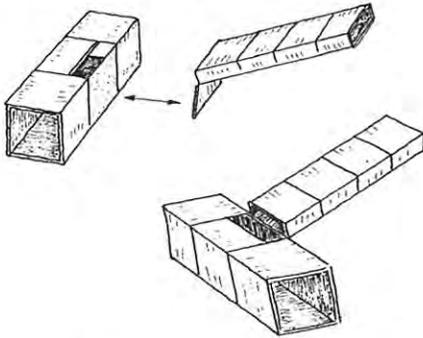
41ページのセミ笛を、竹やプラスチックのかわりに厚紙やアルミ箔の弁当箱で作ってみよう。

つくり方

1. 胴・吹き口を図の寸法に作り、折れ線を入れる。

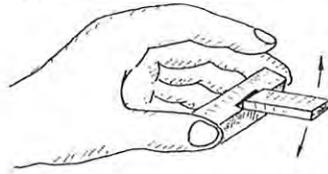


2. のりしろ部分を接着する。

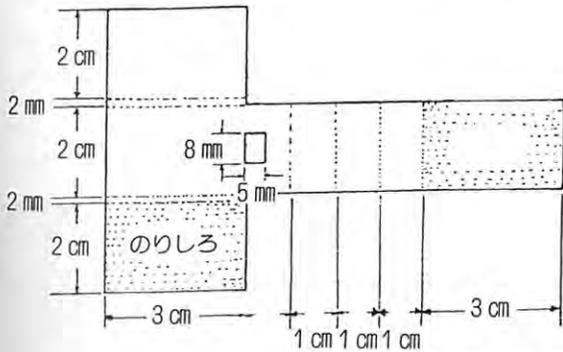
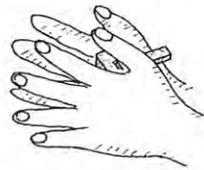


吹き方

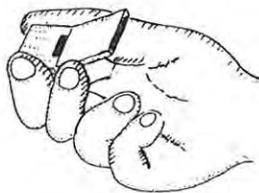
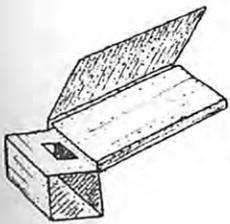
親指と中指で両側をふさいで空気がもれないようにし、吹き口を上下させて音の出るところを見つける。



両手でふさいでもいいよ。



親指と人差し指又は中指で空気がもれないようにふさいで、吹き口を上下させて音の出るところを見つける。



図の寸法を参考にして、大きさを拡大・縮小したいろいろな大きさの笛を作ってみよう。

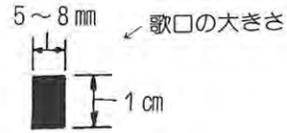
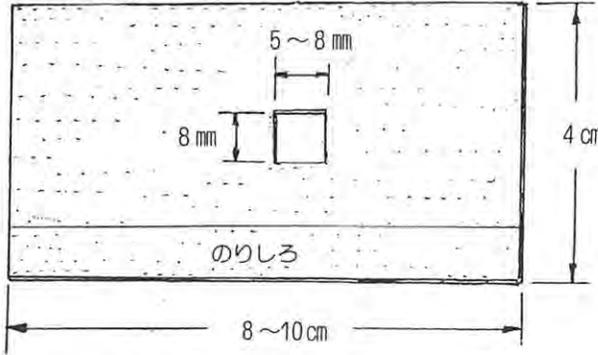
39ページの写真のビッグホイッスルのような大きな笛を発泡スチロール板で作ってみよう。

◀厚紙の笛・その2▶

厚紙やツヤのある紙、プラスチック板、アルミ箔の弁当箱などで笛を作ってみよう。

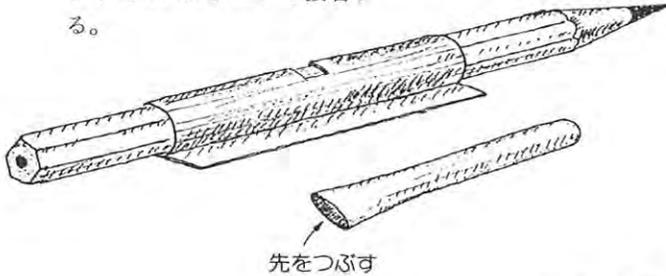
つくり方

1. 厚紙・プラスチック板などを図のような寸法に切る。

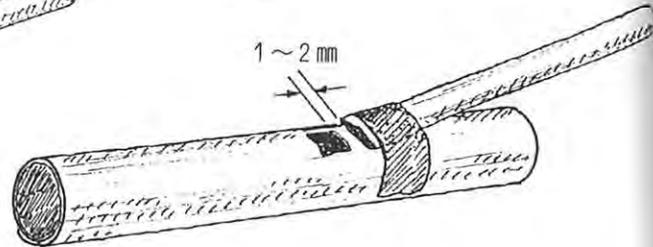


36ページ・37ページの笛や本物のリコーダーの歌口を参考にして、寸法を変えてみよう。

2. 鉛筆などに巻きつけて、ボンドやセロハンテープで接着する。

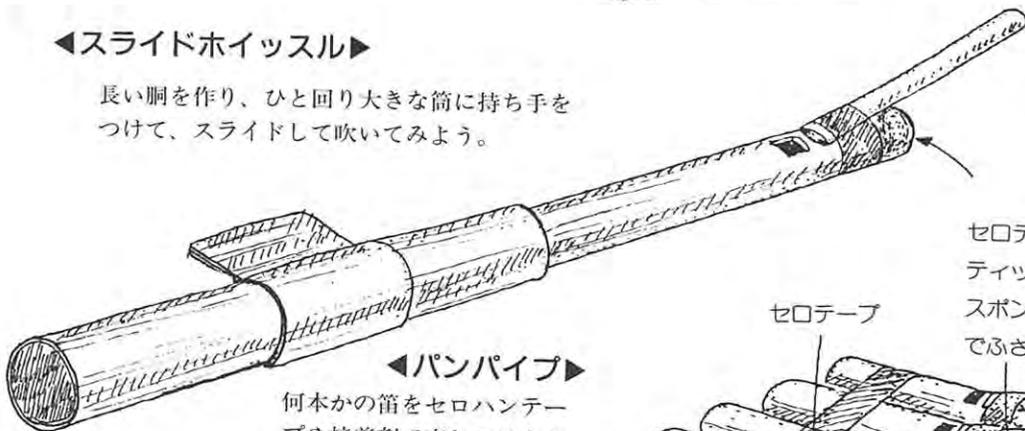


3. 先を平らにつぶしたストローをセロハンテープで取り付ける。



◀スライドホイッスル▶

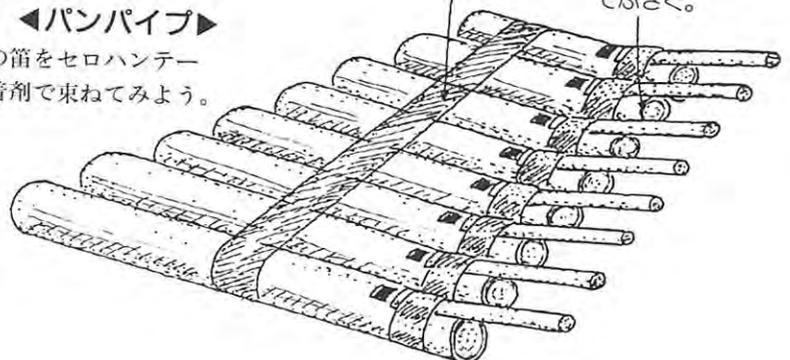
長い胴を作り、ひと回り大きな筒に持ち手をつけて、スライドして吹いてみよう。



◀パンパイプ▶

何本かの笛をセロハンテープや接着剤で束ねてみよう。

45ページの束ね方も参考にしてみよう。



◀金属の笛▶

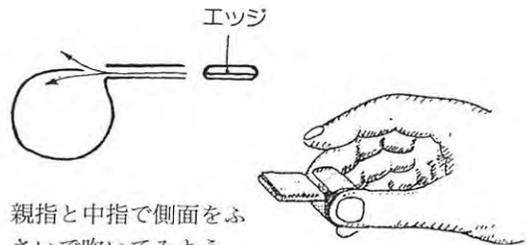
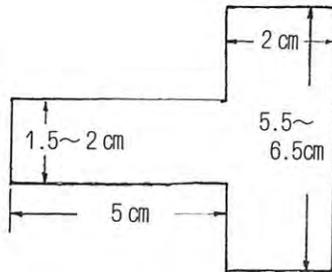
作業のしやすい0.3mmぐらいのアルミ板で作ってみよう。

つくり方

1. アルミ板を金切りバサミや万能バサミで図のような大きさに切る。

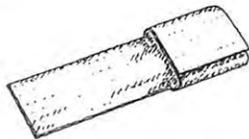
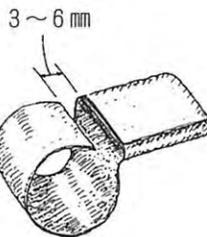
スチール缶でもOK!

ケガをしないように軍手をはめて作業しよう!

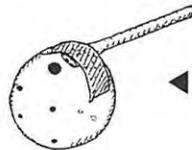


親指と中指で側面をふさいで吹いてみよう。

2. 木や丸棒を使って曲げ、吹き口・胴を作る。

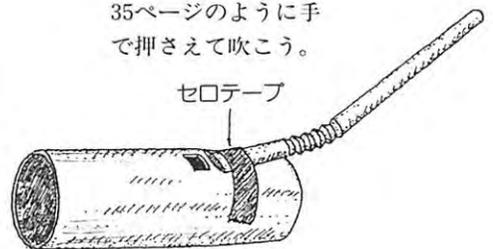


◀ピンポン玉の笛▶



◀トレペの芯の笛▶

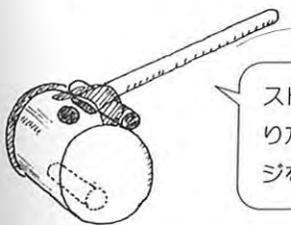
35ページのように手で押さえて吹こう。



◀フィルム缶の笛▶

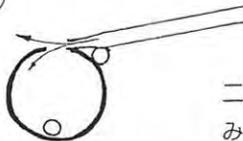
フィルム缶に先をつぶしたストローをつけて吹いてみよう。

小さな穴をあけてみよう。



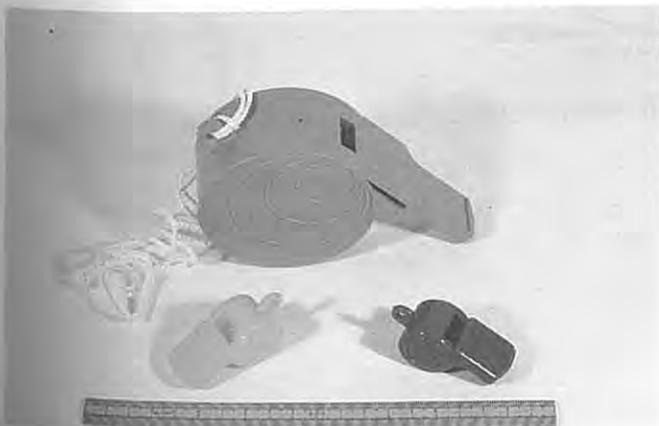
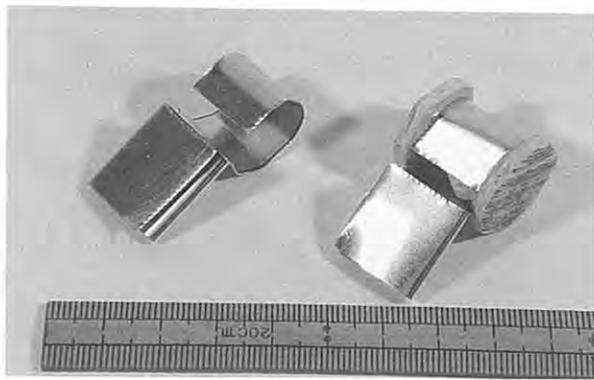
ストローの作り方は32ページを見てね。

中にスチロール玉・キビポール・ストローを入れて吹いてみよう。



二連にして→みよう。

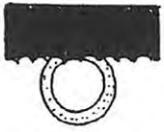
写真のように大きな笛(ビッグホイッスル)も同じように作ってみよう。



◀栓のある笛▶

リコーダーの歌口と同じしくみの笛。栓を小刀や紙ヤスリで慎重に作ろう。

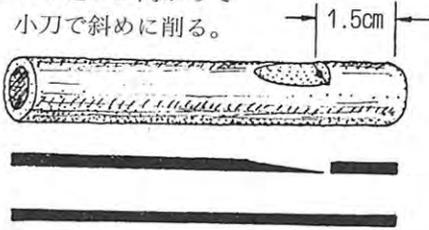
つくり方



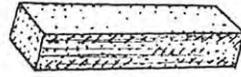
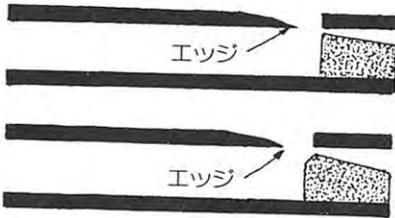
1. 10cmぐらいの篠竹に左図のように内側ぎりぎりまで切り込みを入れる。



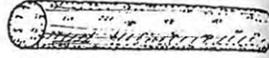
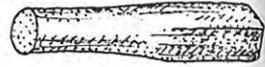
2. 切り込みに向かって小刀で斜めに削る。



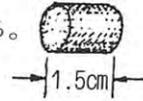
6. 栓を下図のように入れ、リコーダーの歌口のしくみを参考にしてエッジを削る。



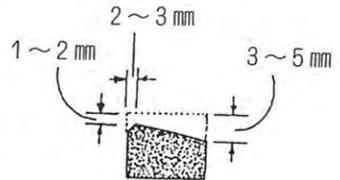
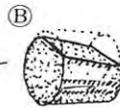
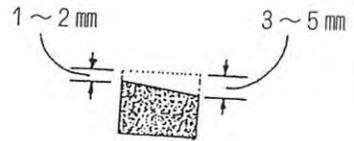
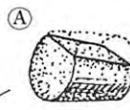
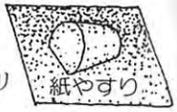
3. 竹の内径に合わせて、やわらかい木・パルサ材・コルクの角材・丸棒で栓を作る。



4. 1.5cmに切る。

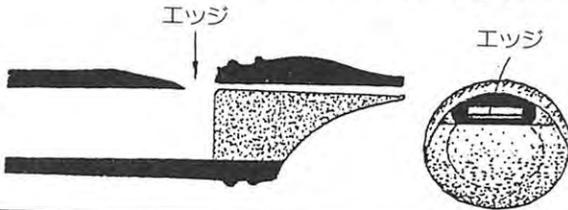


5. 下図①又は②のように木工ヤスリや紙ヤスリで削る。



エッジの先をナイフのように尖らせず角を取ると、まろやかな音が出る。

◀リコーダーの歌口のしくみ▶



ペルーの笛の歌口。彫刻刀で飾りが彫ってある(栓は上と同じ)

上から、リコーダー、太い葦で作られたインド・ペルーのリコーダー





← 誰にでも吹ける横笛

◀仕切りのある笛▶

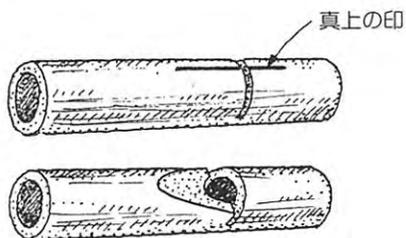
栓の代わりに仕切りをした笛なので簡単に音が出るよ。

つくり方

1. 10cmぐらいの竹を図のようにぎりぎりまで切り込む。



2. 真上の印の部分を下図のように小刀で斜めに削る。

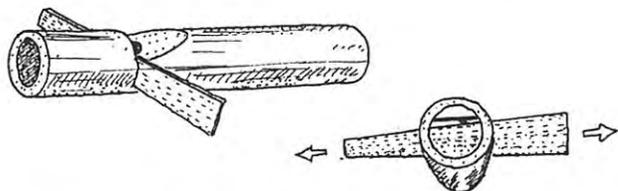


◁仕切り板▷

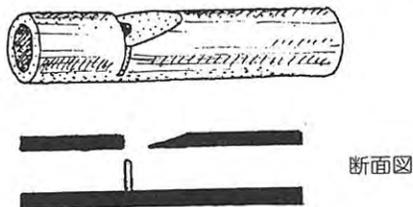
アルミ箔の弁当箱・プラスチック板で作る。



3. 仕切り板を切り込みに入れ、左右にずらして音の出る所を見つける。



4. 音が出たら余分な部分を切り取り接着する。



音が出ない時は、仕切り板を作り直すか竹の裏皮（竹紙）をきれいに取ってみよう。

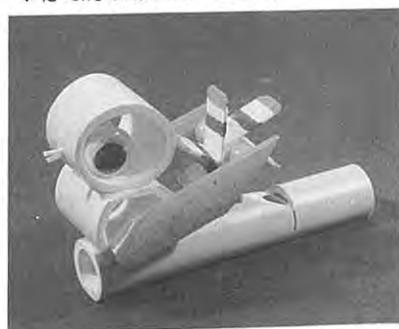
↓ 紙粘土で飾りをつけた笛



↓ 竹で汽車の飾りをつけた笛



↓ 竹で鳥の飾りをつけた笛





いろいろなたて笛

◀誰にでも吹けるたて笛・横笛▶

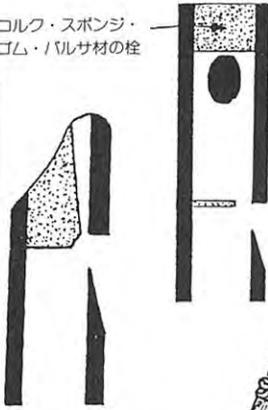
リコーダーをモデルにして笛を作ってみよう。

つくり方

1. 42・43ページの作り方で歌口を作る。

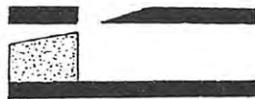
コルク・スポンジ・
ゴム・バalsa材の栓

吹きやすい形
に削ろう!

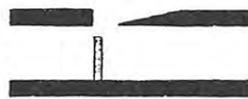


2. リコーダーと同じよ
うに指穴をあける。

栓のある笛



仕切りのある笛



↓横笛

18ページの横笛に合わせ
て指穴をあけてもいいよ。

↓誰にでも吹ける横笛



→たて笛

←リコーダー

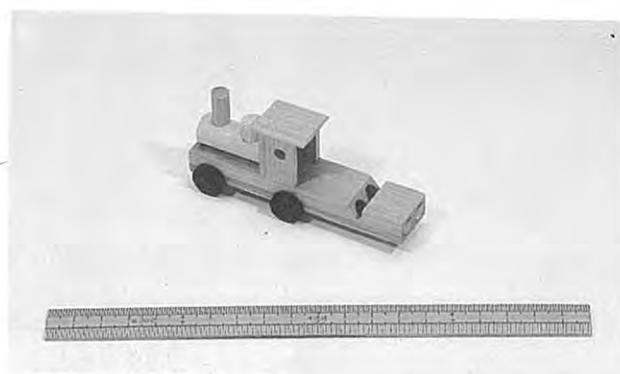
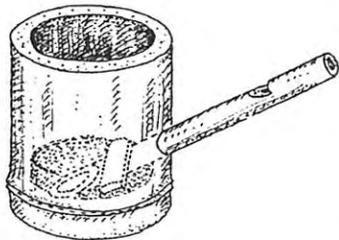
毛糸や刺繍糸を巻
いて飾り、上から
接着剤を塗って固
めてもきれいだね。
(21ページ参照)





◀水 笛▶

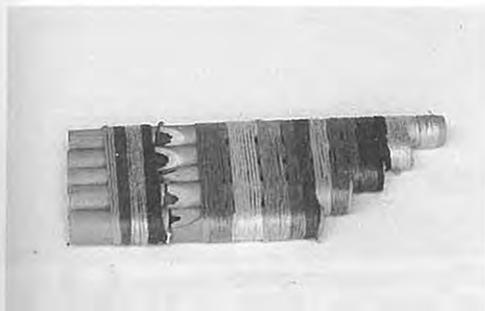
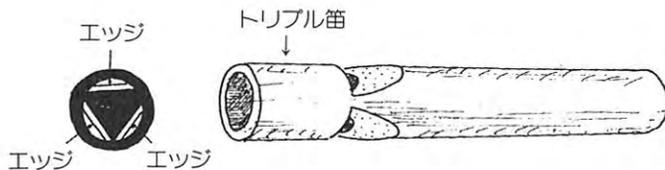
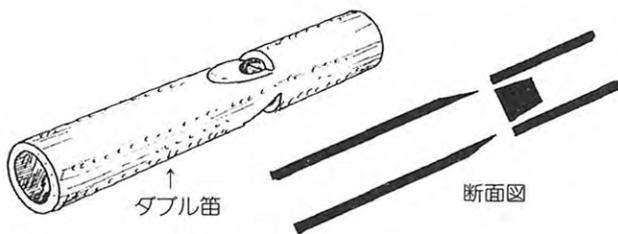
空気の出口の所まで
水を入れて吹いてみ
よう。小鳥の鳴き声
が聞こえるよ。



↑ 汽車型のダブル笛

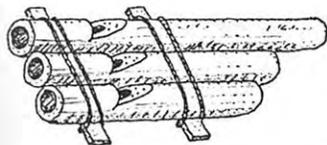
◀ダブル笛・トリプル笛▶

1つの竹に2つ・3つの
歌口を作ってみよう。



◀ハーモニー笛▶

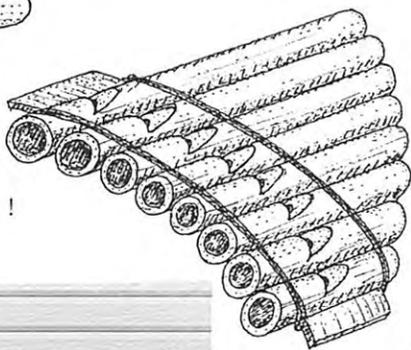
刺繍糸で飾ってみよう！



笛いろいろ・1
42・43ページの作り方をいろいろと組み合わせてみよう。

◀パンパイプ▶

板や紐で束ねて作ろう！



◀せみ笛▶

親指と人差し指
を開閉させて音
を出してみよう。

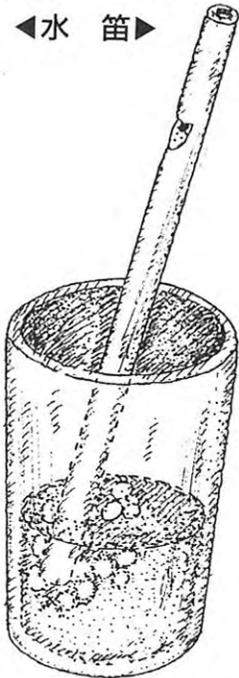


↓ 竹の笛・木の笛





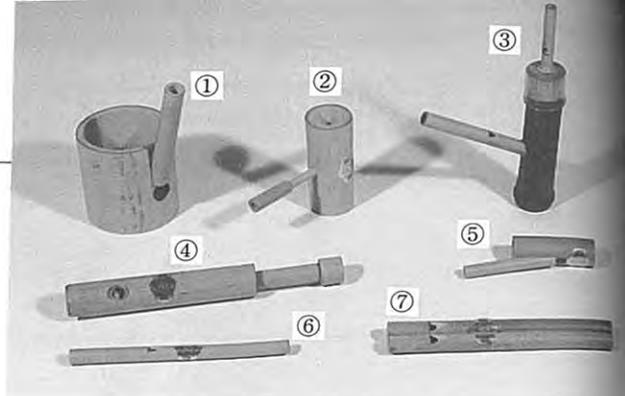
◀ 水 笛 ▶



笛の先を少し水の中に入れて吹くと小鳥の鳴き声聞こえるよ。

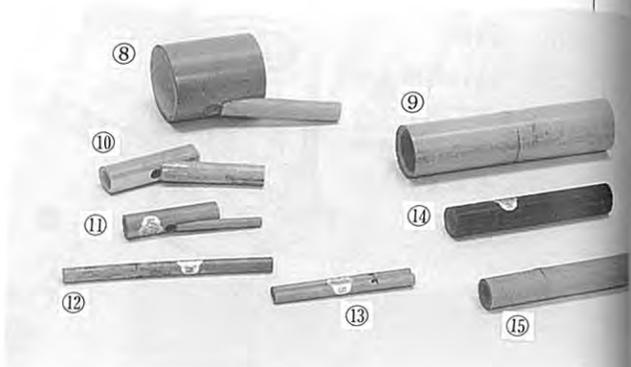
強く・弱く・短く・長く、いろいろな鳴き声で吹いてみよう！

↓木のたて笛



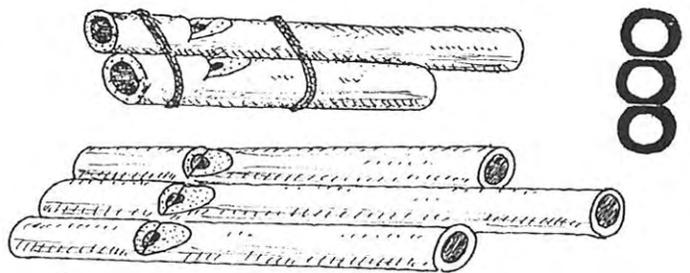
- ①かっこう笛
- ②こねこ笛(リード笛)
- ③水笛 (歌口2つ)
- ④うずら笛 (スライド式)
- ⑤うぐいす笛
- ⑥水笛
- ⑦二連笛
- ⑧かっこう笛
- ⑨馬のいななき笛
- ⑩うぐいす笛
- ⑪うぐいす笛
- ⑫水笛
- ⑬二連笛
- ⑭⑮からす笛

【笛いろいろ・2】



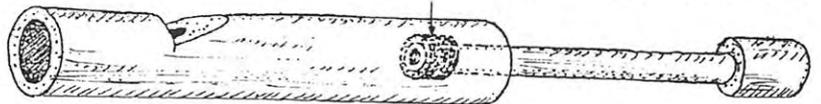
◀ 二連笛・三連笛 ▶

竹の側面を削って接着する。

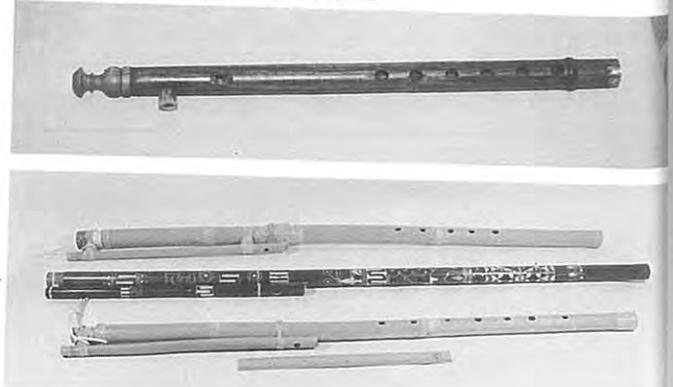


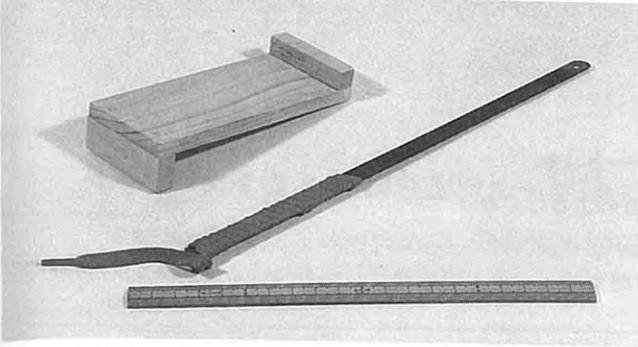
◀ うずら笛(スライド式) ▶

フェルトやすき間用テープで、自由に動くようにゆとりを持たせて作ろう。

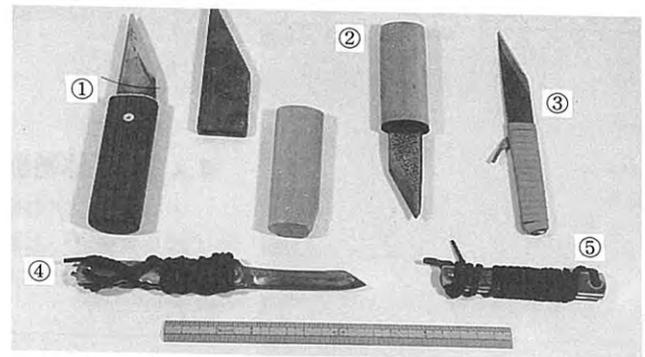


↓長いので延長の吹き口をつけた笛





①ミニ作業台 ②金のこぎりの刃に紐を巻いて持ち手をつけたミニのこぎり



①②柄付切出し小刀 ③持つ所に紐を巻いた小刀 ④肥後守(使いやすく紐を巻いた) ⑤しまう時は紐を巻く

右手で小刀を軽く持ち、左手の親指で押し出して削る。



切る

ミニ作業台の前に竹を押しあて、小刀を押し出して削る。

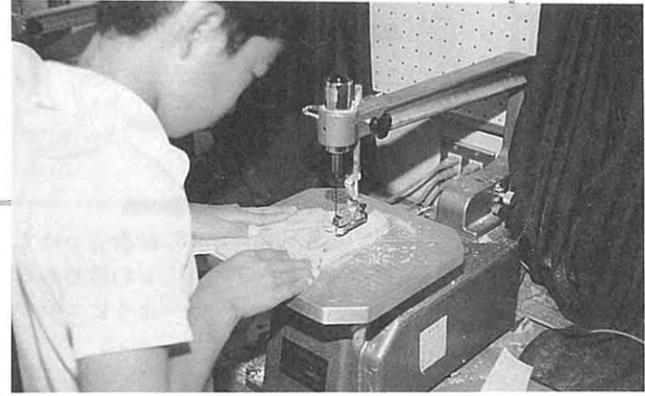


ミニ作業台の前に竹を押しあてて、ミニのこぎりで切る。



削る

曲線を切る時は電動糸のこが便利

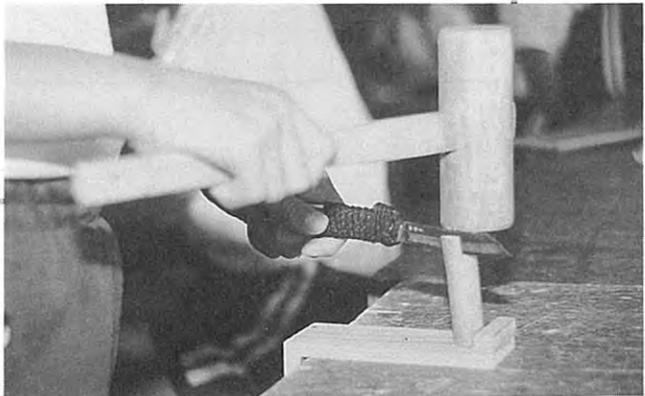


左手にナタ、右手に木槌を持ち、少しずつ割る。



竹を割る

ナタのかわりに肥後守でも割れる。



4. 1枚リード(舌)のついているもの

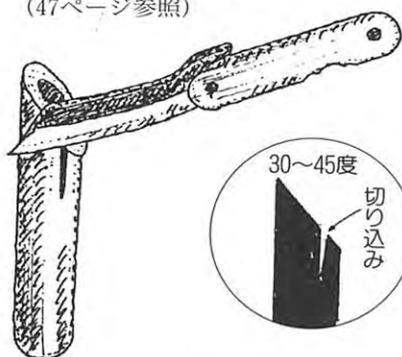
～クラリネット属～

◀竹のリード笛▶

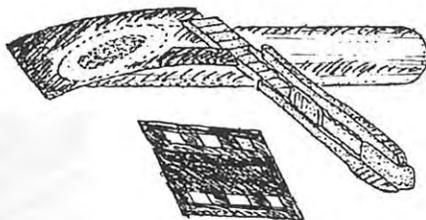
クラリネットには葎片のリードがついている。同じようなリードをネガフィルムで作ってみよう。

つくり方

1. 竹を斜めに削る。(30～45度)
2. 小刀で切り込みを入れる。
(47ページ参照)

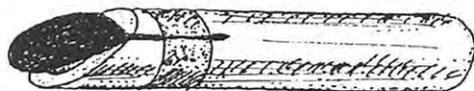
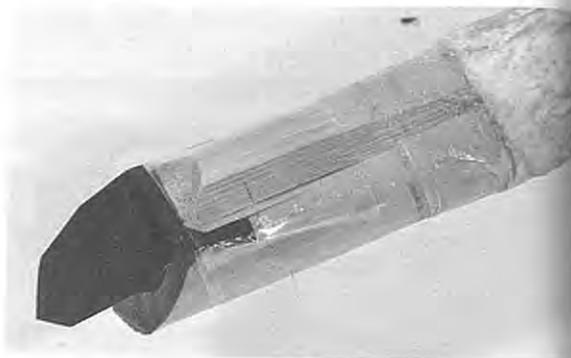
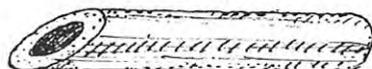


3. 厚さ0.15mmのネガフィルムを差し込み、切り口の傾斜に沿うように折りまげて、余分な部分を切り取る。



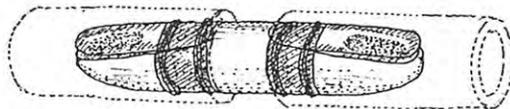
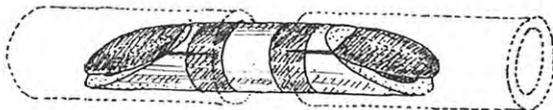
← 霧笛のリード弁はふ厚い金属片がついている。

↓ 霧笛(ふいご式)



4. ネガフィルムが取れないように、セロハンテープ・ビニールテープで留める。

両側から竹ではさんで音を出してみよう。
吹いても吸ってもリード弁が震える笛だよ。



◀紙筒のリード笛▶

竹のかわりに、紙や太目のストロー、ビニール管、鉛筆管、紙管でも同じように作ってみよう。

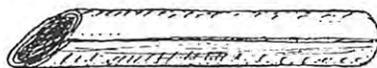
1. ツヤのある厚目の紙を鉛筆などに二〜三重に巻きつけて、竹筒の代わりにする。



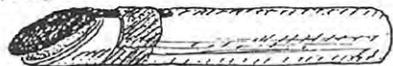
2. 斜めに切る。



3. ネガフィルムをセロハンテープでとめる。



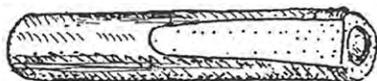
4. 余分なネガフィルムを切り取る。



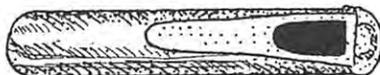
◀竹のリード笛(その2)▶

クラリネットのリード弁をモデルにして、竹のリード笛を作ってみよう。

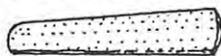
1. 竹を削る。



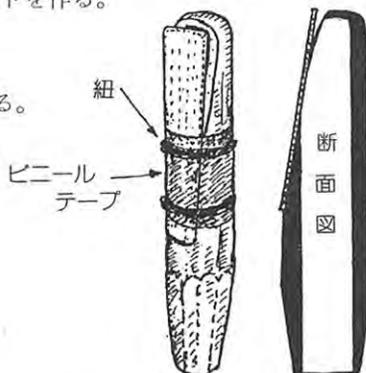
2. 空気の穴をあける。



3. 竹片、プラスチック片、茸片でリードを作る。



4. 紐とビニールテープでとめる。



◀イタドリのリード笛▶

イタドリはやわらかいので作業しやすい。笹の葉やコシのある葉でリードを作ってみよう。

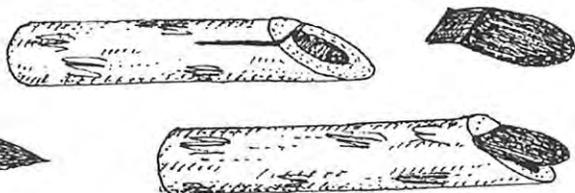
1. イタドリを斜めに削る。



2. 笹の葉などコシのある葉の軸を除いた部分でリードを作る。



3. 切り込みにリード弁を差し込む。



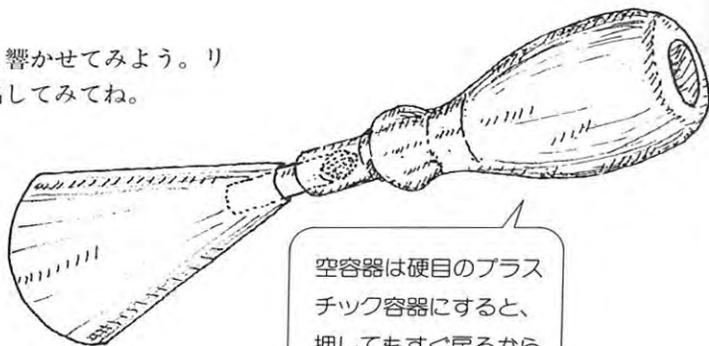
↑ サキソフオンのリード弁。葎を削って作られている。

◀リード笛のラッパ▶

紙やラッパ状の空容器で音を大きく響かせてみよう。リード弁をつけて、いろいろな音を出してみよう。

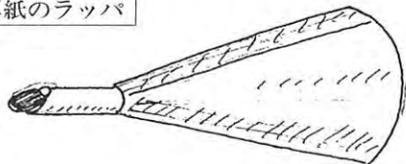


空容器のラッパ

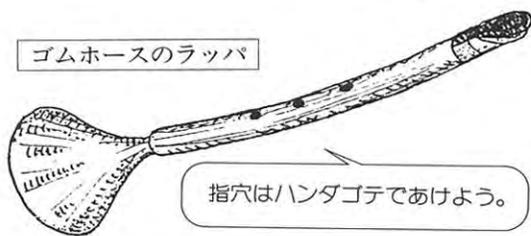


空容器は硬目のプラスチック容器にすると、押してもすぐ戻るから遊びやすいよ。

厚紙のラッパ

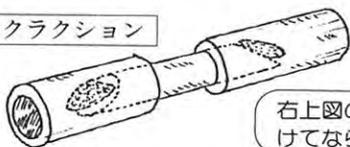


ゴムホースのラッパ



指穴はハンダゴテであけよう。

リード弁のクラクション



右上図のプラスチック容器につけてならしてみよう。

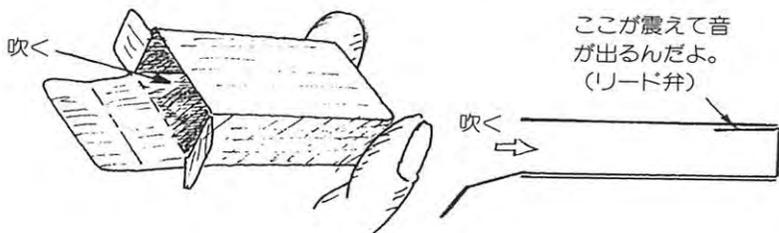
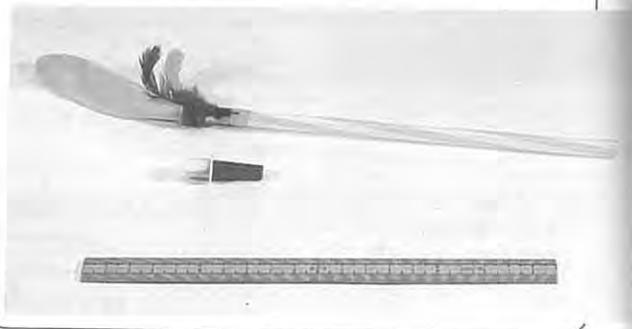
いろいろな大きさの箱を同じように吹いてみよう。どんな音が出るかな？

◀キャラメル箱のリード笛▶

親指と人差し指で空気が漏れないようにふさいで吹いてみよう。



ふくらんだ風船がしぼむ力でリード弁が震えて音が出るおもちゃの笛。



ここが震えて音が出るんだよ。(リード弁)

吹く

吹く

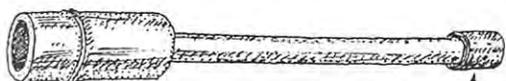


◀ピッチパイプ▶ (スライド・パイプ)

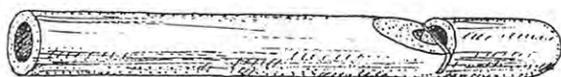
トロンボーンと同じように中の管をスライドさせて音階を作る。
風琴とも呼ばれる。



仕切りのある笛



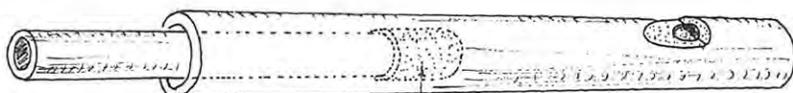
フェルトを巻く



自由に動くようにすき間を作ろう。



栓のある笛



胴の内径より少し小さ目にフェルトやすき間用テープを巻くと自由に動くよ。

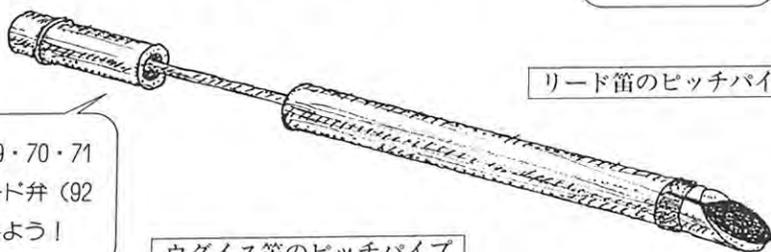
自由に動くようにすき間を作ろう。



竹片とボンドで取れないようにしてね。

- 17ページのトロンボーン、74ページのスライド式、90ページのように延長管をつけてもいいね。

46ページの写真
のうずら笛と同
じしくみだよ。



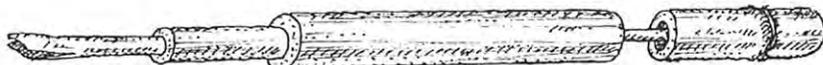
リード笛のピッチパイプ

シングル・リード弁 (69・70・71
ページ) やダブル・リード弁 (92
・93ページ) も付けてみよう!

ウグイス笛のピッチパイプ



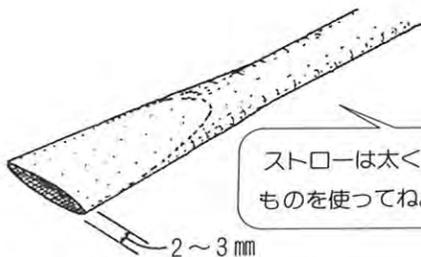
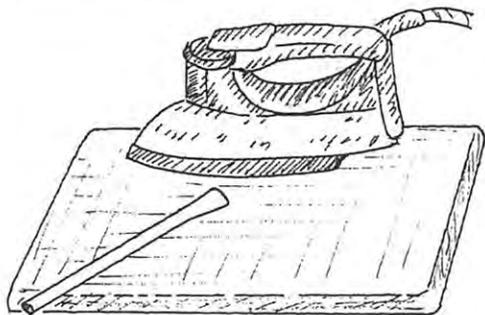
ストローの笛のピッチパイプ



◀ストロー笛▶

オーボエ類のダブル・リード弁(93ページ参照)をモデルにして、ストローで笛を作ってみよう。
アイロンを上手に使ってストローの先を平らにするのがコツ。

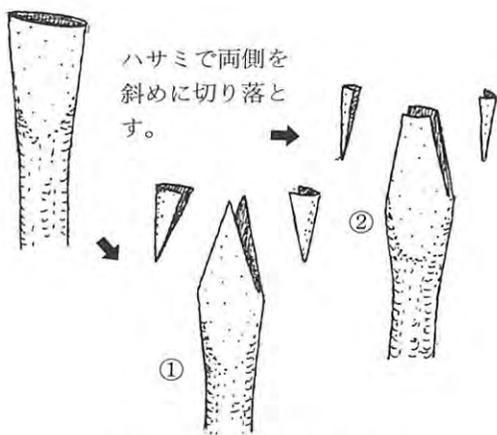
低音にしたアイロンでストローの先が2~3mm開く程度まで平らにする。



ストローは太くて厚めのものを使ってね。

2~3mm

つくり方・その①その②

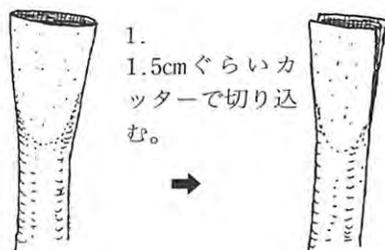


ハサミで両側を斜めに切り落とす。

①

②

つくり方・その③



1. 1.5cmぐらいカッターで切り込む。

2. 先端を少し丸くし、角を切り落とす。

③

●たて笛

●3本笛

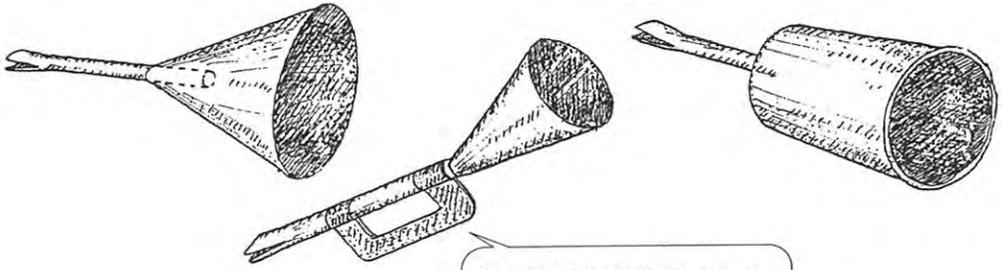
●2本笛

指穴は線香やハンダゴテであけよう。

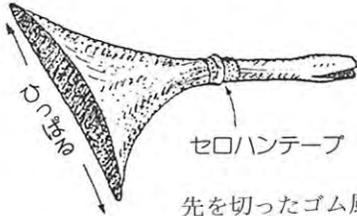
↓紙のラップをつけたストロー笛



●ラッパ状にした紙や紙コップ類をつけて、音を大きく響かせてみよう。



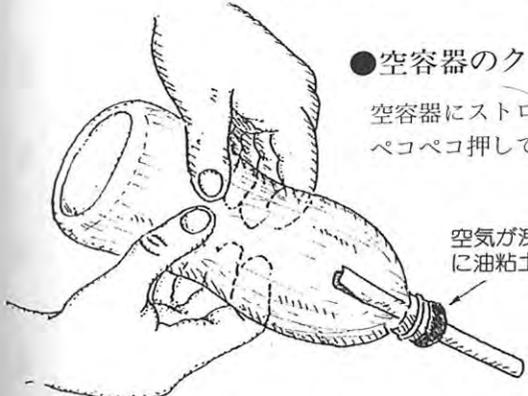
持ち手を付けてみてもいいね。



●象 笛

セロハンテープ

先を切ったゴム風船をつけて、写真のように風船を両側にひっばって吹いてみよう。ゴムがブルブル振えて、動物の鳴き声が聞こえてくるよ。



●空容器のクラクション

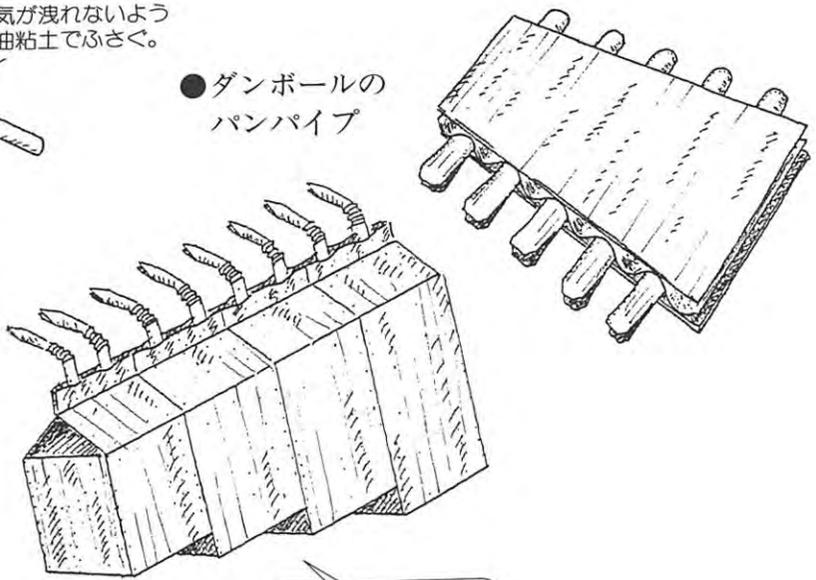
空容器にストロー笛を付けて、ペコペコ押して鳴らしてみよう。

長さの違うストロー笛をダンボールに差し込んでみよう。

●ダンボールのパンパイプ

●牛乳パックのパンパイプ

底のあいた牛乳パックに長さの違うストローを付けてみよう。



音が大きく響くよ!

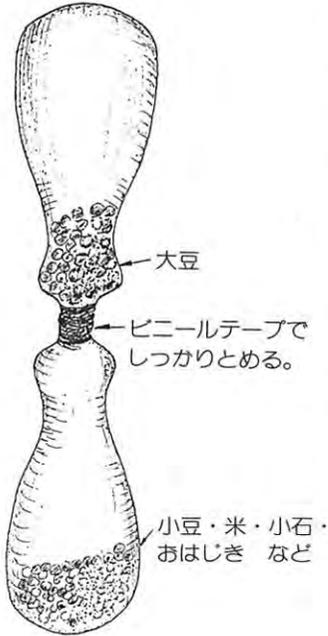


◀マラカス▶

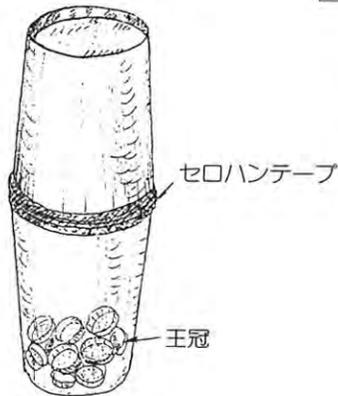
プラスチック、発泡スチロール、紙コップ、空ビン、牛乳パックなどにいろいろな物を入れて作ってみよう。



洗剤の空容器



紙、ビニール、スチロールコップ



マヨネーズの空容器

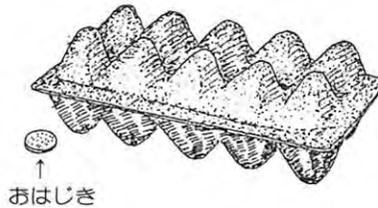


調味料の空びん



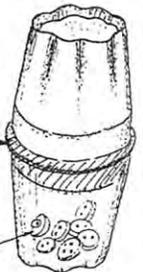
アイスクリームやプリン
の空容器

たまごの空ケース

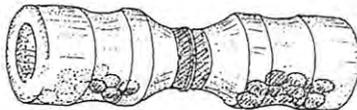


セロハンテープ

ほたん

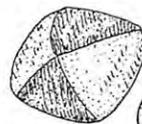


ヤクルトの空容器



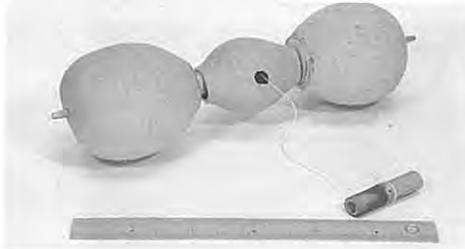
お手玉

昔は音を良くするために、小豆と一緒に足袋のこはぜを入れた。



足袋のこはぜ
(真鍮製)





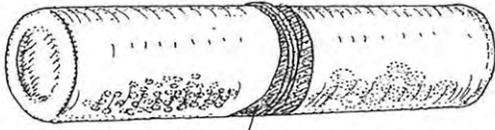
←3つひょうたんに
1本の棒で串ざし
にしたガラガラ
(ハワイ)

→楽しい使い方をいろいろ考えよう!

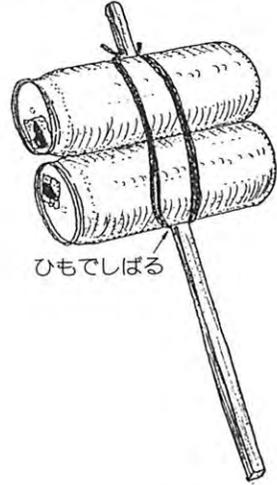
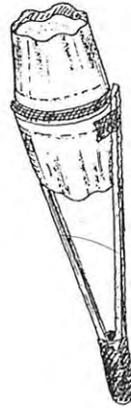


◀カンザ▶

サンバの踊りに使うマラカス。



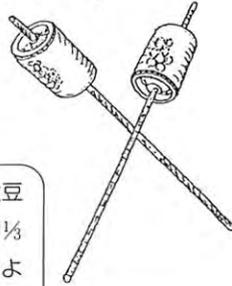
ビニールテープでとめる



ひもでしばる

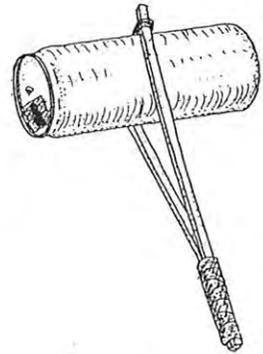


フィルム缶に
竹ひごを通す

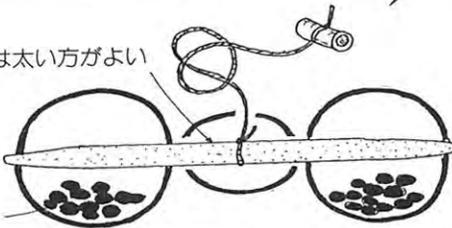


中に入れる小豆や大豆
の分量は、容量の約 $\frac{1}{3}$
ぐらいがよい。(物によ
って異なるので、一番
良い音がする分量を自
分でみつけよう!)

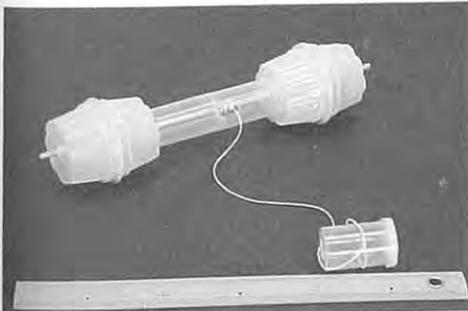
紐を心棒に巻き、ひっぱったり戻した
りして連続して音を出すマラカス。



心棒は太い方がよい



あずき、小石
いろいろな種子



↑プリンの空容器とフィルム缶
(心棒の木は太目がよい)



↑フィルム缶のガラガラ

→籐かこのマラカス

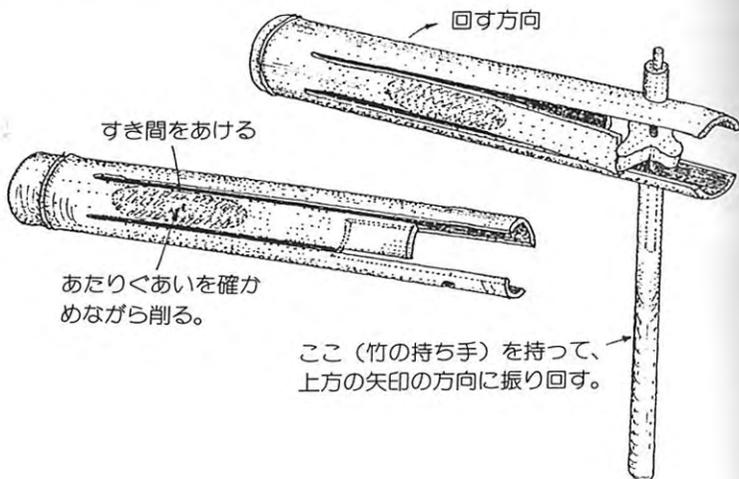
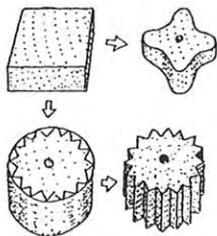


◀ガラガラ(ラチェット)▶

「ガラガラ」という音が、そのものを振り回したり、ハンドルを回したりすると出ます。日本では、「すすめおどし」とも呼ばれています。

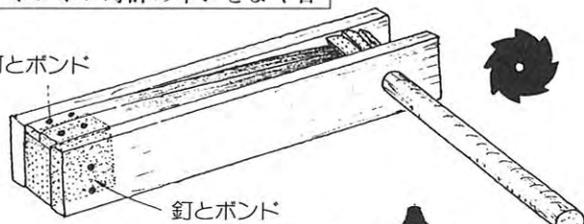
歯車

図のように、爪の数をいろいろ変えて歯車を作ってみよう。



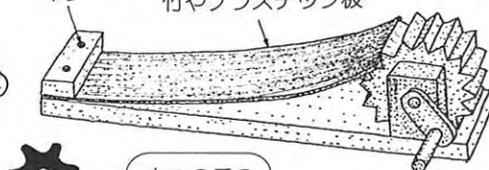
ボンボン時計のネジをまく音

釘とボンド



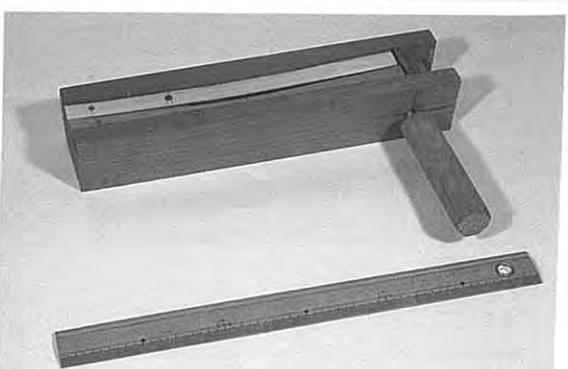
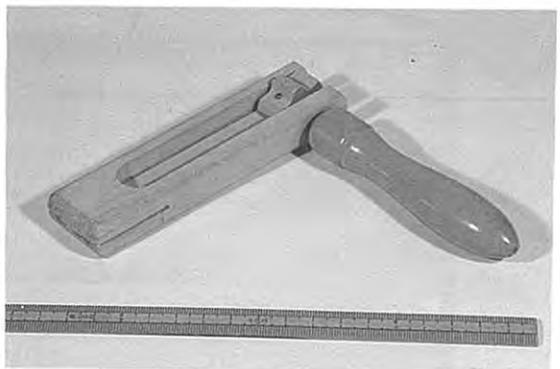
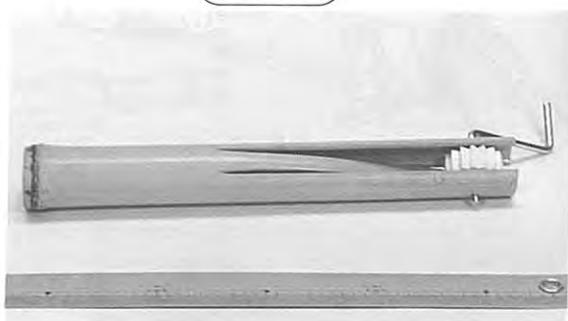
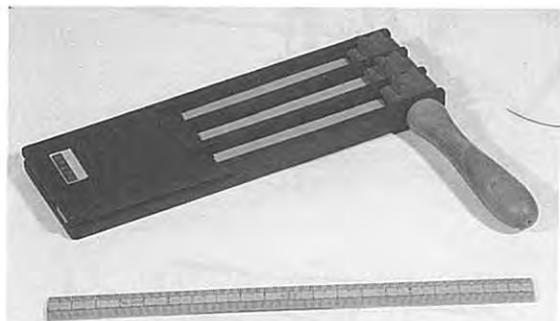
ネジ

竹やプラスチック板



四つの爪の
ついた歯車

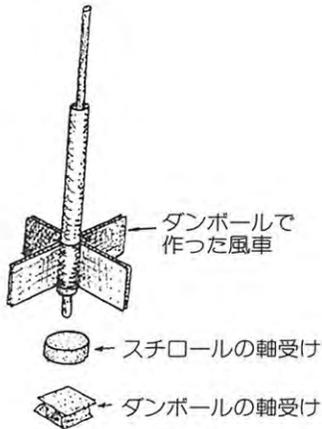
六つの爪の
ついた歯車



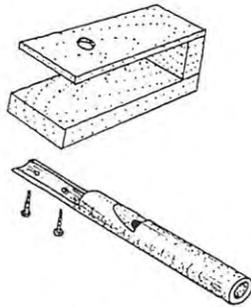
◀くるくるでんでん太鼓▶

竹笛の歌口から出る空気が風車を回し、それに連動して人形が回り、太鼓を叩くしくみです。

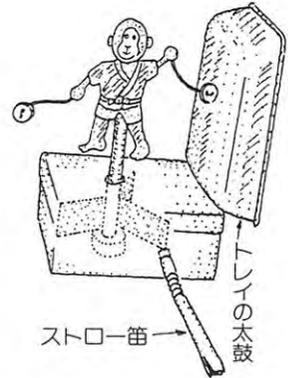
つくり方



1. ストロー、竹ひご、ダンボール、スチロールを使い、図のような回る仕組みをつくる（軽ければ、軽いほどよい）。

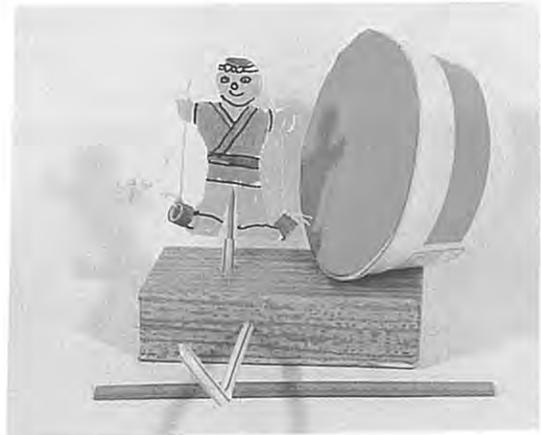
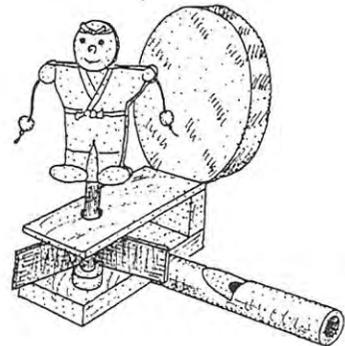
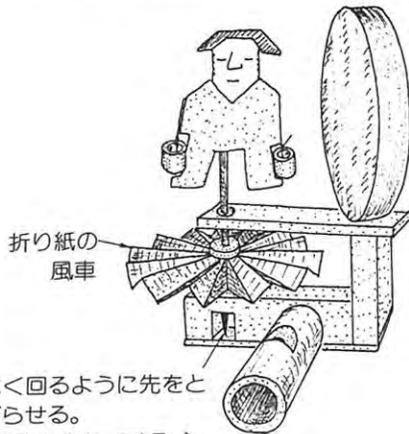


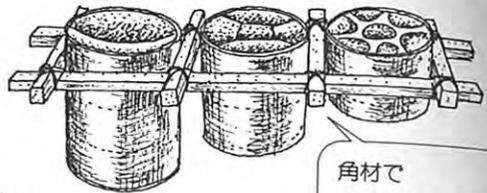
2. 木を組み合わせたたり、いろいろな空箱で台を作り、竹やストローを取り付ける。



3. 太鼓に玉（ボタン等）が当たるように人形を取り付ける。人形はいろいろとデザインしてみよう。

太鼓のつくり方は206ページに出ているヨ！



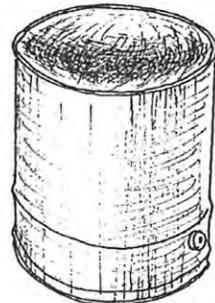
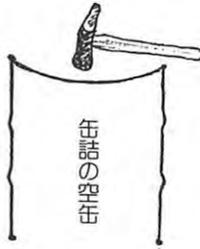


～スチール・ドラム～

空缶の底を金づちでへこませて、タガネで刻み目をいろいろ変えて叩いてみよう！

つくり方

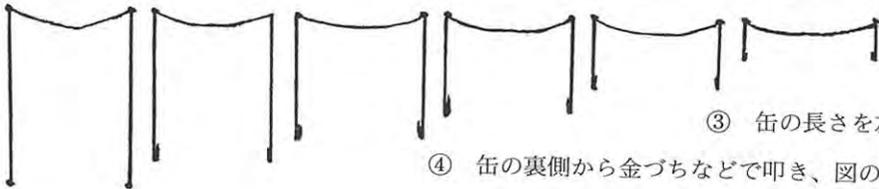
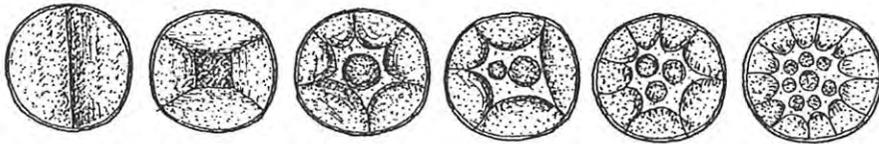
① 厚目の空缶の底を金づちで叩いて、中華鍋のようにくぼみをつける。



② マイナスのドライバーやタガネで、下図のような溝を刻みつける。



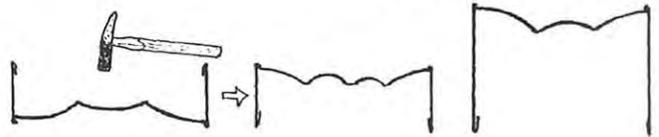
マイナスドライバー



③ 缶の長さを左図のように変える。

④ 缶の裏側から金づちなどで叩き、図のように山形にする。

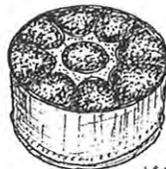
⑤ ガスコンロなどで底を熱したあとで冷水をかけて焼きを入れる。



リズム・パン



バス・パン



ギター・パン



ピンポン

音高の決め方

高い山形 → 高い音
低い山形 → 低い音

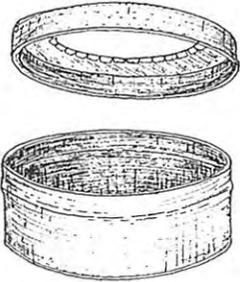
音高の調節

面積大きい → 低い音
面積小さい → 高い音

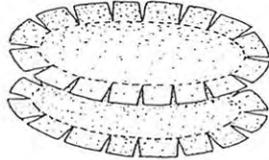


◀空缶のドラム▶

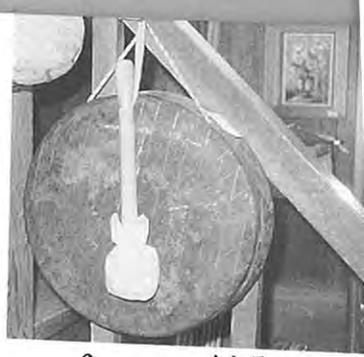
空缶に丈夫な和紙や油絵のキャンバス地、トラックのホロ用シートなどをピンと貼って叩いてみよう。



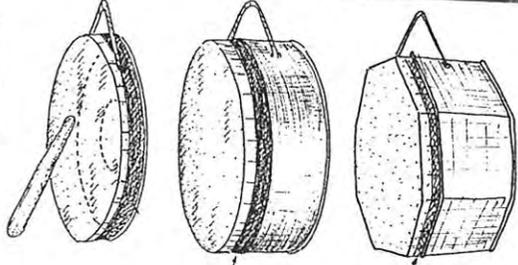
胴に空缶を使い、共鳴膜に丈夫な和紙を何枚か重ねたものを使う。(共鳴膜=206ページ参照。)



◀空缶のドラ▶



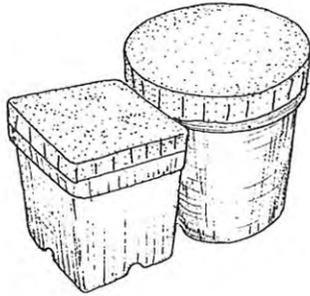
↑ドラ



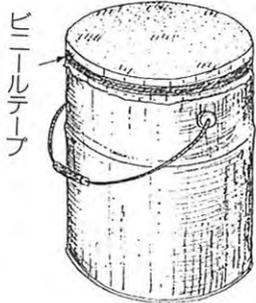
ビニールテープ

ガムテープ

◀植木鉢の太鼓▶

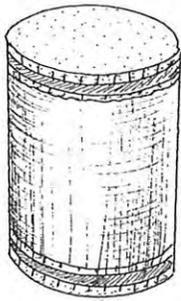


◀オイル缶のドラム▶

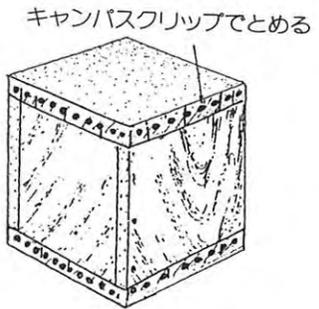


ビニールテープ

◀塩ビ管のドラム▶



◀木ワクのドラム▶



キャンバスクリップでとめる



↑空缶ドラム↑



↑ボンゴ



↑竹ボンゴ